

令和3年度 長田小学校の取り組み

1 研究主題名

自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～英語学習における指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、外国語科・外国語活動について目標と内容、指導について示された。小学校段階では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通してのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すことが目標となっている。中学年では、「聞く・話すこと」を中心とし、高学年では、「読むこと」「話すこと」「書くこと」を通して指導することになる。

本市においては、英語特区であることから、低学年における外国語活動の実施が可能であることから、低・中・高学年における指導の工夫や学びの連続性についての研究、児童が自習的にコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するため研究が必要であると考え。英語の授業でALTやJTEの英語に慣れ親しみ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎的な技能を身に付けるようにする。そのために必要な指導方法の工夫について研究を進めていく。

目標として、以下を掲げる。

- (1) 日本語との違いに気づき、英語を聞くこと、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせる。
- (2) 身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに自分の考えや気持ちを伝えることができるようにする。
- (3) 外国語によるコミュニケーションを図る基礎と資質を育てる。

3 研究の主な内容

(1) 外国語教育における主体的な学びの態度の育成

外国語教育における学びとは、外国語を学ぶことや外国語でコミュニケーションすることであることから、以下の4点に留意しながら授業を行っていった。

- ① 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心を持たせること。
- ② 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かしていくことを意識させること。
- ③ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組ませること。
- ④ 自らの学習やコミュニケーションを振り返り、次の学習につなげるようにすること。

(2) 聞くこと・話すことを充実させた授業づくり

発達段階に応じた各学年の目標を設定し、系統的・連続的な指導を通して、学習内容の定着を図りながら達成感を味わわせ、学習意欲を高めていくようにした。

【低・中学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す……外国語の音声や簡単な語句、基本的な表現に慣れ親しませる。
- ・ 「やりとり」を意識……まねることから、サポートを受けて身近で簡単な事柄についての伝え合いに転換し、できたという達成感を持たせる。

【高学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す…具体的な情報を聞き取ることと、短い話の概要を捉えることができるようにする。
- ・ 「やりとり」を意識……それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようにする。

【全学年共通】

- ・ 生活や習慣、行事等との関連……日本語も含めた様々な言語そのものへの理解や言語の背景にある文化に対する理解深められるようにする。
- ・ 活動・学習形態の工夫……ペア・グループ・学級全体と工夫することで、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。
- ・ 教材・教具の工夫……視聴覚教材や ICT を効果的に活用することで、学習への興味・関心を高める。

(3) 指導方針

- ① 4月に全職員で外国語活動及び外国語科の進め方を共通理解し、ALT・JTE 及び英語専科指導教員(FT)とティームティーチングによる指導について確認する。
- ② ALT・JTE 及び英語専科指導教員(FT)も含め、各学年で年間指導計画を確認し、必要に応じて見直しを行う。
- ③ 全学年の児童が ALT・JTE と交流できるよう、前半(4～10月)と後半(11月～3月)で担当学年を分けて指導に当たる。
- ④ 各学年で授業の打ち合わせの時間を毎週設け、ALT・JTE 及び英語専科指導教員(FT)と共に授業の内容と進め方を確認する。
- ⑤ ALT・JTE 及び英語専科指導教員(FT)と学級担任は、授業においてその役割を明確にすることで、児童の学習への意欲付けを行う。
 - ALT・JTE・・・コミュニケーションの相手、ネイティブ・スピーカーとしての英語力
 - 英語専科指導教員(FT)と学級担任・・・授業のコーディネーター及びデザイン

4 研究の成果と課題

(1) 学習指導案

< 教案 >

対象学年：5 学年 作成者：JTE 大石 理佳

I can run fast. (3/7)

5年(31/70)

単元目標：ある人物や動物ができる事を聞き取ることが出来る。また、クラスの友達と自分のできる事を話したり、伝え合ったりすることができる。

★めあて★ **どのようにできるかを 伝えよう**

扱う表現：<表現> **I can (play the recorder) / What can you do? / He [She] can (swim well) / Who can ski? / What ... do you like? / Do you like ...? / I like ... / Who am I? できる事の語彙 (swim, dance, play the piano など) どのようにできるかの語彙 (well, fast, high, fast)**

過程	児童の活動	指導者の活動		◎留意点・教材
		担任 (HRT)	JTE	
あいさつ (5分)	1. 今日のリーダーが前に出て、クラスに号令をかける 2. あいさつ・ルールの確認をする (リーダーの質問に答える)	・リーダー(日直)を前に募る。 ・全員とあいさつ(※5つの質問)をし、※3ルールの確認をする	・児童の支援を行う ・HRT と協力し、児童の支援を行う	
復習 & ウォームアップ (4分)	3. 【Let' s review】 Who am I? クイズ	JTE : Let' s try 'Who am I?' quiz! ① I' m blue. ② I can fly high . ③ I can speak many languages very well . ④ I have lots of secret tools. ⑤ Nobita is one of my good friends. Q : Who am I? A : I' m Doraemon!		
めあて Today' s goal (3分)	4. 今日のめあてを推測し、確認する	HRT : クイズ中の high/very well についてふれながら、児童にめあてを推測させ、引き出す。 ↓ めあてを紹介する。 「 どのようにできるかを 伝えよう 」		
サブ活動 (9分)	5. 【Let' s Listen 3】 テキスト p.59 【Let' s Think】 (2分) テキスト p.59	①リスニング中に出てくる表現を確認 (6種類) swim/ climb/ jump/ dance/ run/ paint (順を変える) ↓ ②リスニング どの動物のことかな? □に番号を書こう! Let' s Listen3 で出てきた副詞 high, fast, well を使うことで、「高く跳べる」「速く走れる」「うまく踊れる」など、「できること」がより詳しく表現できることに気づかせる。		フラッシュカード デジタル教科書

<p>メインとなる活動 (16分)</p>	<p>7. 【Activity1】 テキスト p.59</p> <p>スリーヒントクイズ (生き物) を作ってクイズ大会をしよう!</p>	<p>① JTE : Today, let's make a 3-hint quiz! HRT : 今日はみんなでスリーヒントクイズ (生き物) を作って、クイズ大会をします! ↓ ② JTE : (実際にモデルを見せながら、児童とやってみます。PPT スライドを電子黒板へ投影し、1 つずつ、計3 つヒントを出します。みんな分かるかな?) 1) I can't fly. 2) I can climb trees. 3) I like bananas. Q : Who am I? → A : I'm a monkey! ↓ ③ JTE : 生き物の例を挙げ、フラッシュカードで児童と確認する。(クイズ作成用ワークシートに載せた動物 : monkey/ birds/ duck/ horse/ fish/ frog/ rabbit) ↓ ④ HRT : クイズ作成用ワークシートを児童に配布し、I can/ can't の表現を使って、スリーヒントクイズを作成する旨を伝える。I like~等の既習表現を併せて用いても good! 大ヒントは3 番目 (最後) にもってくるよと盛り上がるよ! ↓ ⑤クイズを作成出来た児童に、前に出てクイズを出してもらおう。クラス全体で挑戦する!</p>	<p>PPTスライド</p> <p>生き物フラッシュカード</p> <p>3 ヒントクイズ作成用ワークシート (別紙)</p> <p>○×ピンポン</p>
<p>ふり返り (4分)</p>	<p>9. 今日の活動をふり返り、感想を発表する。</p>	<p>・ふり返りの発表者を指名し、クラス全体で共有する</p>	<p>・児童の良かったところなどを賞賛する</p>
<p>Closing (4分)</p>	<p>10. Closing 今日のクラスリーダーが前に出て、クラスに号令をかけ、終わりのあいさつをする。</p>	<p>・リーダー (日直) を前に募り、児童の支援を行う</p>	<p>・児童の支援を行う</p>

※毎時の質問 ①How are you today? ②How is the weather today? ③What day is it today?

④What's the date today? ⑤What time is it now?

※3ルール ①Listen carefully. ②Help each other. ③Have good manners.

ワークシート

Let's make a 3-hint quiz!

①I can't fly.
②I can climb trees.
③I like bananas.

Who am I?
I'm a monkey!



Let's make your own!

① _____
② _____
③ _____

(2) 各学年の取り組み

【1年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

「ハロウィンについて知ろう」の單元では、仮装している校長先生や各担任の所へ行って、やり取りを楽しみながら異文化に触れることができた。



Trick or treat!



モジオトタイム(JTE 理佳先生)
英文字と音をつなげて覚えることで、未習の単語でも音がイメージできるようになる指導方法。毎時ラスト5分に導入し、低学年から楽しく文字や音に慣れ親しんだ。



【2年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

「色や形を英語で言ってみよう」の單元では、カードを使って色や形を楽しく学ぶことができた。「お正月遊びをしよう」では、「福笑い」を使って顔のパーツや上下左右の位置を英語で伝え合うことができた。



Up! Up! Up!

違う、違う！ No! No!
Down だよー

活動計画を基にして話したくなる教材を製作・活用、めあてに沿って活動をした。



HRT も間違いを恐れず、楽しく Challenge! 英語学習姿勢のモデルとなる。

Look!
This is a Christmas tree I made!

【3年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

” what’ s this?” では 3 ヒントクイズを一人一人が作成し、問題やヒントを言ったり、答えを当てたりするやりとりを英語で行うことができた。既習事項も本単元に組み込み、楽しく理解しながら英語活用能力を身に付け始めている。



児童実態に応じて、動く活動も多く取り入れる単元もあった。集中を維持しながら外国語活動に親しめるように工夫した。

JTE 理佳先生に英語で質問♪
“Who are you?”
“I’m Minnie Mouse.”



【4年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“What time is it?” では、年度初めから毎時間の始めに” What time is it? “” It’ s ---.” のやり取りを繰り返していたため、児童が自信をもって受け答えができるようになった。



I want two apples, please.

“Phonics” ALT ウィル先生

毎時間始めの3分に、英文字と音をつなげて覚える指導方法“Phonics”を実施。お手本を繰り返し真似ることで、視覚・聴覚・自分の発音をリンクさせて体得できるように頑張っています。

電子黒板も毎時間活用し効果的な指導を行う。

♪“あごを下げて a, a”

OK. Two apples!
(おいそうなパフェになってきたぞー♪)



【5年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“Where do you want to go?” 「行ってみたい都道府県を伝えよう」では、社会科（地理・歴史）、道徳（伝統文化）、家庭科（地域の食べ物）とも関連し学びを深めることができた。また、タブレットでの発表シート作りも効果的だった。



“What letter is it?”

“It’s m!”(みんなで)

文字指導の始めの一步となる「大文字・小文字の読み書き」では、児童実態に応じて十分な時間をかけ、段階的に指導した。ボードゲームや大文字 - 小文字のマッチングゲーム等も取り入れ、児童が主体的に学べるよう工夫を凝らした。

I の小文字は i でだよね？
ここでいいよね？(文字認識の
定着につなげる活動)



ICT も活用しながら、いきいきと学び、発表することができました！



【6年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

○単元のゴール「志真志小の同級生とそれぞれの学校での Best memory を伝え合う」
6 学年の「My best memory」では、単元のゴールを予め児童に伝え相手意識・目的意識を持たせることで、児童が意欲的に学ぼうとする姿が見られた。運動会や合唱発表会など行事名を伝えるだけでなく「なぜその行事を選んだのか」や「なぜそれを伝えたいのか」も考えることで、より自分事として捉え、相手に伝えようとする意識付けとなった。



表現の仕方や相手への伝え方を知り、ポインティングゲームを通して、表現するために必要な言葉や表現方法を確認した。



担任は特に配慮が必要な児童のサポート等を行う。

My best memory を紹介する文章を、単元を通してスモールステップで学び、様々なペアで練習を重ねながら自分なりの表現や言い方に慣れていった。



タブレットの Meet 機能を使い、志真志小の児童とオンラインで交流した。

グループに分かれて英語で簡単な自己紹介をした後、お互いの Best memory を伝え合った。早く発表が終わったグループは、お互いに質問し合う様子などがみられ、意欲的に関わろうとしていた。

(3) 成果と課題

低学年

- 授業の流れがパターン化しているので、子ども達も楽しく参加することができた。（おさらい→歌→めあて→練習→活動→ふりかえり→歌）
- 子ども達は英語の授業を楽しみにしており、ALT/JTE の発音を真似しながら意欲的に取り組めた。
- 外国語を楽しみにしている児童、英語を使って会話をしたいという意欲のある児童も多い。
- ALT/JTE の子どもを惹きつける活動内容・教材の工夫により英語を学ぶ意欲が高まっている。
- ゲームに無中になり、英語で話すことを忘れてしまうので、適宜声かけが必要。
- 学習したフレーズを使ってゲームをするとき、自信をもって言える子と言えない子がいる。
- コロナ禍でゲームやペア活動などに制限があった。

中学年

- モジオトタイムや Phonics などを通して、楽しく文字や音声に親しみ、覚える文字や音が増えた。国語のローマ字学習にもスムーズに取り組むことができた。
- 小単元を設定し目標を明確にして、スモールステップで毎時間を積み重ねていくことにより、単元目標を達成できた。
- ALT/JTE が児童の実態に合わせて学習内容を工夫して下さり、楽しみながら学習に取り組んでいた。
- チャンツや topics に取り上げることで様々な英語表現や単語に親しむことができた。
- 時間をオーバーしてしまうこともあったので、タイムマネジメントの意識していく。
- 進んで学習に取り組めない児童がいる。

高学年

- ペアを変えてやりとりの練習をすることで、様々な相手との会話を抵抗なくできるようになった。
- タブレットを活用して、オリジナルの発表シートを作成し、楽しく学習できたことで意欲の向上につながった。また、これまでの手書きより時間短縮にもなった。
- 英語専科指導教員（FT）による単元計画がしっかりなされており、児童が単元のゴールを理解することで安心して学習に向かうことができた。
- 質問の仕方や答え方などを“教える”のではなく、言葉を繋ぎ合わせて“考えさせる”ことで、児童主体の授業実践になっていた。
- フィンガートリルやポインティングゲームなど、表現に慣れさせるための工夫がなされていた。
- 毎時間でペア発表を取り入れており、回数を重ねることで児童が自信を持って発表できていた。
- リアクションの良さに気付かせ、意識してさせることで自然なリアクションできるようになった。
- 単元によって難しい単語や文章が出る場合があり、児童が苦手を感じることもある。
- 自分の考え（日本語）を持つことが難しい児童がいる。
- 文法的な表現、助詞などが入り、難易度が上がって個人差が大きくなってきたように感じる。

(4) 課題に対する対応策

① 児童の学習意欲や学習理解について

- ・ タイミングをみて、英語を使うように声掛けをする。
- ・ 英語で言いたくなるようなゲーム構成の工夫をする。
- ・ 間違えて当たり前の雰囲気作りをする。
- ・ どう表現して良いか分からない児童の困り感を取り上げ、全員で解決するような手立てをする。
- ・ 日本語で考えさせたり、友達の発表を参考にさせたりする。

② タイムマネジメントについて

- ・ めあてに沿って活動を絞り、時間配分を意識して安定した授業展開を目指す。
- ・ お互いの習得したことを確認し合う時間や褒め合う時間も設定し実行できるようにする。

5. 外部評価

英語に関する保護者の意見として、「家で授業の話をする」と答えたのは 67.4%と低く出た。今後、学年だよりや学校だよりで英語の授業について保護者に周知していく必要がある。